

26年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	0.0	33.3	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 14.3	△ 16.7	0.0
	トドマツ	33.3	0.0	0.0
消費動向	スギ	14.3	16.7	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	16.7	0.0
	トドマツ	△ 33.3	0.0	△ 33.3
在庫動向	スギ	0.0	0.0	△ 33.3
	ヒノキ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
	カラマツ	△ 28.6	△ 33.3	△ 16.7
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は10月の横ばいが、11月の増加を経て12月には再び横ばいに、ヒノキは3ヶ月連続の横ばい、カラマツは10月、11月の減少が12月には横ばいに、トドマツは10月の増加の後11月及び12月は横ばいに。
・スギ原木の消費は、10月、11月の増加の後12月は横ばいに、ヒノキは10月、11月の横ばいが12月には減少に、カラマツは10月の横ばい、11月の増加の後、12月は横ばいに、トドマツは10月の減少、11月の横ばいの後12月は減少に。
・スギの在庫は10月、11月の横ばいから12月は減少に、ヒノキは10月、11月の減少の後、12月は横ばい、カラマツは3ヶ月連続して減少、トドマツは3ヶ月連続して横ばいで推移。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
スギ	0.0	16.7	16.7
ヒノキ	0.0	25.0	25.0
カラマツ	0.0	16.7	33.3
米マツ	40.0	25.0	25.0
北洋カラマツ	20.0	20.0	20.0
その他	50.0	25.0	50.0

・スギ、ヒノキ及びカラマツの原木価格は10月の保合が、11月、12月には強保合に、米マツ、北洋カラマツ及びその他は総じて強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)
・カラマツ・トドマツは、12月になれば伐採時期に入るので入荷増、消費は減少、在庫は冬期間は増える。
・スギ入荷変わらず、カラマツは遅れての入荷、生産に合わせて消費、在庫はほぼ横ばい。
・入荷は、スギ・ヒノキは大きな変化なし地域間で温度差あり、カラマツは入手エリアが限定的で入出荷堅調。消費は、大きな変化なし、ただし、年末頃にかけて為替の影響による外材製品の変化で動きが見られるか期待。在庫は問題なし。
・生産計画通り入荷、10月構造用合板は10%減産計画、消費量は9月と同様の見込み、9月ヒノキ材の使用量が計画より200m3増にてヒノキ材が減少。
・8月、9月の雨で伐採が落ち込んだのか入荷が非常に少ない、10月以降の生産増を期待したい。10月は稼働日数が多く生産量は増加、入荷予定量が少ないため在庫は減少、今後は在庫増やしたい。
・順調に入荷。

(原木価格)

- ・外材はCIFベースでそれほど変化ない、為替は考慮していない。
- ・スギ、ヒノキ径級により多少下がったもののほぼ横ばい、10月～12月まで計画単価にしているものの月ごとの変動もあり得る。
- ・スギは市場価格が大幅に値を上げたので9月20日以降価格を上げた、10月以降は市場価格を見ながら決めたい。外材は現地価格下げているが円安で円単価は値上げ。
- ・国産材横ばい、外材は現地価格は横ばいからやや下がっているが円安で価格は上昇。
- ・9月以降、国産材は地域間の温度差は感じるどころ、出材量、価格とも変化が見られてきた、外国産材は為替の影響により軒並上昇。

26年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	12.5	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 14.3	0.0	△ 16.7
	〃 (24mm)	△ 12.5	0.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 28.6	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 14.3	16.7	0.0
	〃 (12mm)	0.0	14.3	0.0
	〃 (15mm)	△ 14.3	16.7	0.0
	〃 (24mm)	0.0	14.3	0.0
	〃 (28mm)	△ 14.3	16.7	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 14.3	△ 33.3	△ 16.7
	〃 (12mm)	△ 12.5	△ 14.3	0.0
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 16.7	0.0
	〃 (24mm)	△ 12.5	△ 14.3	0.0
	〃 (28mm)	△ 14.3	△ 16.7	0.0

・9mmの生産は3ヶ月連続して横ばい、12mmは10月の増加の後、11月、12月は横ばい、15mmは10月の減少、11月の横ばいを経て12月には再び減少に、24mm及び28mmは10月の減少の後11月及び12月は横ばいに。

・9mm、15mm及び28mmの出荷は10月の減少、11月の増加を経て12月は横ばいに、12mm及び24mmは10月の横ばいから11月の増加を経て12月は横ばいに。

・9mmの在庫は3ヶ月連続して減少、12mm、15mm、24mm及び28mmの在庫は10月、11月は減少し、12月には横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
構造用(9mm)		△ 14.3	16.7	16.7
〃 (12mm)		△ 25.0	28.6	14.3
〃 (15mm)		△ 14.3	16.7	16.7
〃 (24mm)		△ 25.0	28.6	14.3
〃 (28mm)		△ 28.6	33.3	16.7

・出荷価格は、全品目とも10月の弱保合から、11月、12月には強保合ないしやや強保合に。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・当月構造用合板10%減産計画、出荷は生産計画同等横ばい状態、9月出荷量、計画に対し約7%の増にて全品目多少減少する、適正在庫と思われる。
- ・在庫見ながらの生産、厚物(24, 28mm)の出荷が増えてきた、需要が出始めた証である。出荷状況を見ながら、生産し、在庫は横ばいを維持する。
- ・若干の生産減、適正在庫。
- ・10月減産継続、品目により増減あり。出荷は9mm、15mm減、特に15mmの減が大きい、ルートは当月買に徹している、プレカット系は新規受注が取れにくく稼働率の落ち込みが出ている。在庫は、9mm以外は出荷動向により生産しており、横ばい。
- ・減産継続、出荷は月を追うごとに増加、減産出荷増で在庫減。
- ・出荷動向に合わせて生産。12月は稼働日数少なく出荷減少、当社は販売先を絞って製造しているため大きな落ち込みはないと思う。10月は4月～9月と比較し動きが出てきている。在庫は適正、横ばい。

(合板価格)

- ・9月後半より再度値下げ傾向、国産材、製品価格の安定を望む。
- ・各社生産調整、価格維持を期待したい。
- ・若干弱含み。
- ・減産して価格維持に努めているが荷動き悪く品目により下がっている、特に24mmの下げが大きい。
- ・需要増により値戻し。
- ・住宅着工の減少もあり在庫が増えているが、ラワン材の価格高騰もあり下落はない。